

22世紀八幡ルネッサンス運動(略称:八幡ルネ)企画作業チームニュース

# ひ る ば

■発行: 22世紀八幡ルネッサンス運動  
企画作業チーム ひろば編集部

■事務所: 八幡市八幡高畑 10-76  
TEL/FAX075-981-6505  
090-3710-4842

■橋本連絡所: 八幡市橋本興正 7-4 075-971-9488

■男山連絡所: 八幡市男山指月1-12 080-3780-6140

■八幡連絡所: 八幡市八幡土井135 竹島文化2F13号  
080-3775-8133

■振込口座: 京都中央信用金庫八幡支店  
普通 5243582  
22世紀八幡ルネッサンス運動

## 目的

八幡市民の幸福の増進のために活動する。古い歴史を有する八幡の秀でた伝統を継承し、八幡市民の総意と英知を結集して活動する。町の隅々にわたり高い関心を払い、たくましい意志と情熱を貫いた粘り強い行動で、光とろうのおいある生活と文化を享受するように努める。

## 新年のごあいさつ

\*250号の記事ですが、後半部分が抜けておりました。お詫び致しますとともに、後半の記事を掲載いたします。

「排出量は35年に19年比で12%減少する見通しだが、上昇を1・5度に抑える目標達成には19年比で60%の減少が必要だ」(国連環境計画「UNEP」と、現状を分析しています。

高市首相は国会で台湾有事をめぐり「存立危機事態」を指摘し、すぐさま中国から内政干渉だと強い批判を浴び、急速に日中関係は悪化しています。日本の軍事費の大幅な増大は、戦争の放棄を明記している憲法から見ても穏やかではいられません。世界各地で緊張と対立が高まり、平和を望む動きとは反対の動きが強まっています。私たちはこうした無謀な戦争をやめさせる立場に置かれている状況に生きています。

八幡ルネとNPO八幡ルネ協会の機関誌「きずな」が責任者の引退により廃刊の岐路に立たされましたが、なんとか継続できまることができました。しかし、毎年開催してきた環境をテーマにした「三世代交流イベント」は、現在のところ開催の目途が立っておりません。また、昨年の11月に発刊された「気候変動新聞」は編集者の間で見解の違いで、12月は発行できなくなりしました。こうした動向について、皆さまにお知らせすると同時に、率直な意見や助言をいただきたいと考えております。

私たちは皆さまから評価される取り

組みとともに、困難も抱えて活動しています。そして、そういう困難は生まれて当然だし、解決の道があると信じて活動しております。市民の皆さまにおかれましても、今日の厳しい動向に冷静に対応され、希望をもって生活されるように切望し、新年のあいさつとさせていただきます。

八幡29年(2026年)

22世紀八幡ルネッサンス運動

呼びかけ人一同

### 《呼びかけ人》

- 伊藤錚治 田久保裕 福川肅 杉山恵美 石川未来子 天野みどり 石野喜幸 伊藤文彦 貝通丸哲也 所埜聖司 谷本信義 立花ヒロコ 高橋千代子 神田長子 土井三郎 日高幹夫 出口修 山口克浩 武田守治 堀江正彦 宇治川春子 中村久雄 窪田潤子 須藤邦弘 沢田三彦 猪飼康夫 中野玉美 松川啓子 中井恵美子 佐藤長作 竹萬稔 杉山隆 小川和彦 堀渉 東龍一 藤田直子 吉川せい子 小山愛子 武部輝雄 中村たかし 市原清人 林政廣 藤田美代子 他2名 計45名

### 《お願い》

日頃の八幡ルネの活動や趣旨に賛同していただける「呼びかけ人」をお願いしております。

ご賛同いただいた方の行動は自由で、制限はありません。会費もございません。

私どもとしては、なるべく多くの方々からご賛同をいただきまして、活動への励みにしたいと思っております。もし、都合により辞退したいとの申し入れがあった場合には、すぐに辞退として取り扱わせていただきます。

す。

呼びかけ人になっていただいた方は、夏の「暑中見舞い」と冬の「新年あいさつ」にお名前を掲載させていただいております。名前の掲載を辞退される場合は、その旨連絡いただいて削除の扱いを致しております。

呼びかけ人にご賛同いただける方は、事務所が近くの会員までご連絡をお願い申し上げます。

## 八幡市の空き家問題

中村たかし

八幡でも高齢化が進み、人口が2050年には現在の6万8000人から4万8950人になると予想されており、だれも住んでいない家、いわゆる「空き家」が少しずつ増えています。空き家は、きちんと管理されていけば問題になりませんが、長い間放置されると地域の暮らしにさまざまな悪い影響を与えます。

たとえば、建物が古くなってこわれやすくなったり、屋根や壁がはがれて落ちたりする恐れがあります。また、草木が伸び放題になり、隣の家や道路にはみ出たり、虫や動物が棲みついたりすることもあります。落ち葉の季節には、隣や向かいの方は毎日半永久的に掃除をしなければなりません。また、住人ではない人が住みついたり、空き巣に狙われやすくなったり、防犯や火災の面で不安を感じる住民もいます。

このように空き家は近くに住む人の安心や安全に大きな影響を与えます。家や土地の管理は所有者が行うのが基本ですが、実際は放置されている家が多

くなっています。

八幡市では、こうした問題に対応するため、令和3年度から令和12年度までの「空き家等対策計画」を作り、空き家対策を進めています。令和7年市議会での市の説明によると、市民からの苦情が148件あり、その中で危険な空き家は9件あるとされています。

2023年には空家等対策特措法が改正され、危険になる前の段階から、より早く対応できるようにになりました。法律では「特定空家」に至らない、状態が悪い「管理不全空家」の段階で、市が持ち主に対して「指導」や「勧告」を行い、改善を求めることができますと定められました。これまで八幡市が実際に何件の指導や勧告を行い、どれくらいの空き家が改善されたのかについては、はっきりと示されていません。空き家対策がうまく進んでいるかどうかを知るためには、苦情件数の把握だけでなく、どれだけ問題が解決したのかをわかりやすく示すことが大切です。

また、空き家は、家の持ち主が高齢になったり、相続の話合いが進まなかったりすることで生まれることが多く、だれにでも起こりうる問題です。八幡市では、「住まいエンディングノート」やホームページで、空き家を出さないための注意を呼びかけていますが、さらにわかりやすく伝える工夫も必要です。

京都市等では、空き家が増えないように、出前講座で説明をしたり、使われていない家の活用を進めたりする取り組みも行われています。八幡市でも、空き家が危険になる前に対応し、住民が安心して暮らせる街を守るための取り組みを、今後さらに進めていくことが求められています。

因みに、京都市は「空き家問題」に対し、市民に①おしかけ講座②出前トーク(空き家に関する取組と内容・空き家の状況、空き家が地域に与える影響、空き家の発生の予防、空き家の活用を促すための支援制度、まちづくり活動を通じた空き家に関する取組、空き家の活用事例、管理不全状態の空き家としないために)を実施し、積極的な啓蒙を行っています。

**フロム・ロード&ストリート  
VOL.54 2026・1・16**

普通の人の家の中のモノに触れては  
いけないけれど、  
連想するのはおもしろそうだ

梅川由紀著『ごみと暮らしの

社会学』を読む

八幡ルネはずっと昔、二本橋の空き家に大量のゴミが捨てられた現場を見かねて、撤去した経験がある。その日は軽四トラックを2回にわたり使って運び出した。攻防はしばらく続いたけれど、今は平常に収まっている。

梅川さんは本の後半で、重点的にゴミ屋敷を取り上げている。ゴミ屋敷はモノとゴミがどう異なるのか理解するうえで、きわめて参考になるとしている。

本書によると、ゴミ屋敷に住む人は高齢で一戸建てに住み、同居人がいない場合が多く、近所付き合いはないか、あっても仲が悪い場合が多く、近隣住民などからの苦情や相談によって発見されるケースが多いとされる。

梅川さんはゴミ屋敷に住むAさんと接し、Aさんと会話した人たちの話を記録している。

「あ、これ『キャットフード』は空掃中に「うわ、びしょびしょ、ああ、これ洋服や靴下や、ああ、これ洗えば使えるね。家の中に入れようね」梅川さんは、これを機能的価値と名付ける。

周囲の人びとの認識がもつとも対立する対象は食品で、賞味期限切れのもの、腐っているもの、カビが生えているもの、臭いがするものなどを、Aさんは「大切なモノ」と言う。Aさんは毎日スーパーに出かけ、食品購入時に多くの人と話し、家にため込む食品には、この望ましい自己を実現した記憶が刻まれ、梅川さんは、これを望ましい自己を実現した証とし、心情的価値と名付ける。

Aさんが立派な赤い傘は捨て、古い汚れた安物の白い傘を保管していたのは、使えるかどうかではなく、使いやすさや未来の可能性に対する価値とみなし、可能性的価値と名付ける。

梅川さんは機能的、心情的、可能性的の3つの価値のいずれかに属するものをモノとしている。ゴミとは3つの価値を失ったものとし、モノとゴミの間に中間的な「マージナルな対象」があると定義している。

おもしろいなあと思うことは、家の中にしまい込まれたモノについてである。どこの家にも捨てたいけれど捨てられぬモノは相当量ある。機能的価値はなくても、心情的価値のあるモノは多い。それゆえに発想を転換させ、心情的価値に惜別するこ

とができれば、家の中は片付くことが可能になる。

家の中の様々なモノは、これからもずっとモノであり続けるかは疑問だ。梅川さんは、普通の人の家の中のモノに触れてはいないけれど、このように連想してみると、何かのヒントが生まれそう。

梅川由紀さんの『ごみと暮らしの社会学』は、八幡ルネにまだ在庫が若干あります。希望される方は無償で譲渡しますのでご連絡ください。

**大谷川清掃レポート**

2026・1・28

**トウモロコシ**

イネ科の植物で、世界の三大植物の一つです。原産地は南米のアンデス山麓です。ヨーロッパへ伝わったのは1492年、日本には1579年といわれます。ポルトガル人との南蛮貿易によりもたらされたので、「南蛮」とよばれることもあります。

「中国の唐から来たから、トウモロコシ(唐モロコシ)と言うのではなか」と考える人もいるかもしれませんが、唐から来たものではありません。伝わった当時、「モロコシ」というイネ科の植物があり、それと似ていたため「唐のモロコシ」という意味で、「トウモロコシ」と言われたのでした。「唐」は、広く「外国」「舶来の」を意味に使われています。

トウモロコシは、イネ科の植物で、単子葉植物に分類されています。春にまかれた種が発芽して最初に一枚の葉が出てきます。これが単子葉植物の特徴の一つです。成長した葉を



観察すると、細長く葉脈が平行なのも特徴です。葉は横に広がらず、上へと伸びていきます。双子葉類の植物は、葉を水平に広げ、光を独占するような形になります。イネ科の植物の立ち上がる葉は周囲の様々な方向の光を受け止めるのに有利で、草原などで数を増やしてきたと考えられています。

夏には、雄花と雌花が咲きます。茎の先端に咲く花が雄花で、雌花は茎の中ほどにある葉の付け根に穂のような状態で咲きます。穂のようなところから、細く長い毛が出てきます。これが雌花の雌蕊で、すべて受粉できればその本数の実ができることとなります。トウモロコシは、風媒花なので、花粉の移動は風まかせになります。雄花が雌花よりも高い位置にあるのはそのためです。

家庭菜園などでトウモロコシを栽培すると、歯抜けの状態のトウモロコシになりがちです。栽培数が少ないと風媒花なので花粉の量の問題が考えられます。実はそれだけが原因ではないのです。トウモロコシは、自分の花粉が自分の雌蕊につかない

ようにしているためです。最初に雄花が熟して花粉を散らします、この時には雌花は熟していません。タイミングをずらして自家受粉を避けているのです。

◆1月25日、第202回山路大谷川清掃は、10名(うち子ども3名)の参加で、土嚢袋換算で111袋回収しました。

**【第203回山路大谷川の清掃のご案内】**

■日時：2026年2月22日(日)

午前8時半〜11時(雨天中止)

■集合：旧あずま屋

(コノミヤ裏八幡源氏垣外)

※会場設営にご協力いただける方は、集合時刻の30分〜1時間前に現地にお集りください。

※用意して頂く物：厚手の手袋。その他の必要な物は用意します。

**【第120回舞台・盛戸大谷川の清掃のご案内】**

■日時：2026年3月1日(日)

午前8時半〜11時(雨天中止)

■集合：大谷橋下流の休憩所

(ベンチあり)

※会場設営・用意して頂く物は右と同様です。

《主催》NPO法人22世紀八幡ルネッサンス協会

連絡先：八幡市八幡高畑10-76

Tel 075(981)6505

携帯090・3710・4842